

挑む!

京都拠点の能楽師

こんごう たつりの
金剛 龍謹さん(29)

優雅に舞う 難曲に京の風を

端正な顔立ちに、凛としたたたずまい。能楽で5流あるシテ方(主役など

をつとめる職掌)のうち、唯一、京都

を拠点とする金剛流の若宗家だ。鎌倉

時代までさかのぼるといふ金剛流の伝

統を受け止めながら、新たな歴史を刻

むべく修練の日々を送る。

物心つく前から稽古を始め、気がつ

た。自分を見つめ直すきっかけになっ

たのが10代半ばのころ。本拠地である

金剛能楽堂が老朽化で移転が決まり、

舞台に立つ機会が減った。だが、ほか

のこともしていてもめり込めない。

新しく完成した能楽堂で舞台に立った

とき、自分でも驚くぐらいに興奮して

いることに気づいた。「やっぱり能が

好きなんだと分かりました」

同志社大を卒業し、2012年に自

らが主催する能の公演「龍門之会」を

始めた。年1回のペースで舞ったこと

のない難曲や大曲に挑む。4月2日に

行われる龍門之会では、親子の恩愛を

描いた能「海人」を舞う。特殊な型や

難しい所作が多い曲で、今回は通常の

ものとは異なる特殊演出で臨む。

金剛流は優雅な芸風で「舞金剛」と

呼ばれる。「金剛流は東京の能に比べ

ると、京都らしい丸みがある。30代に

なったら、今まで培ってきたことをど

んどん舞台に出していきたい」



京都市生まれ。父・永謹(ひさのり)さん、祖父・巖(いわお)さんに師事。5歳で初舞台。京都市立芸大能楽部でも指導。4月2日の公演は午後2時開演。

文・向井大輔 写真・楠本涼

記者から

京都らしい物腰のやわらかさの中に、ぶれない芯の強さを感じる。そこがいかにも頼もしい。